

LORC第1班 2004年度第2回班研究会

日時：2004年6月5日(土) 10:30～16:30

場所：京都市左京区南禅寺草川町 無隣庵 母屋2階

【本日の議論】

1. 今年の調査・招聘と2004年度研究会日程について
2. アウトプットについて(方法、形式など)

< 1.1 調査・招聘について >

日	内容	発表者	備考
6月5日	(招聘) 英国の地域政策と地域人材	バーミンガム大学教授 Ken Spencer 氏 第3班研究員 小山善彦氏	兼第2回 研究会
7月中旬	(招聘を要請中で開催未定) リバプールの地域再生とEU構 造基金、地域戦略パートナ シップ(LSP)について	実務家、EUのコミッショナー、地域開 発エイジェンシーなどから2名(未定) 調整中	兼第3回 研究会
9月下旬 (4～5日間)	(海外現地調査) ドイツあるいはデンマーク 環境政策のパートナーシップに ついて		
11月8、9日 10日	オランダ国際シンポジウム & エクスカーション	調整中(第1班研究員 Peter Knip 氏)	
12月	(招聘)ドイツのハム市とミュ ンスター市 環境系事例で海外都市から行政 職員とNPO	未定	
2005年2月 後半	(調査 or 招聘) アメリカの地域政策	未定	

2004年度国内調査については、研究員が個人的に実施している企画に参加し、議論を行うこととする。班としてまとまった調査は組まない。

9月と2月の海外調査については旅費の総枠の中で実施を決定しなくてはならないため、国際シ
ンポの総予算が明確になってからでないと実施の有無、規模など決めることができない。

1, 2班共催講演会(第1班 第2回研究会)

日時: 6月5日(土) 13:00-16:30

場所: 無隣庵 母屋2階

京都市左京区南禅寺草川町

Tel: 075-771-3909

地下鉄 東西線「蹴上」より徒歩6分

市バス 系統多数「神宮道」「動物園前」「法勝寺前」などより徒歩4～5分

演題: 「地方自治体の Modernisation とボランティアおよびコミュニティセクターの
役割」& 「Modernisation 政策によって必要となってきた新しい人材」

講演: Ken Spencer 教授(バーミンガム大学 The Institute of Local Government Studies)

司会、進行、コメント: 小山 善彦(バーミンガム大学 第3班研究員)

ハーグでの国際シンポ

日時：11月8日（月）午後～9日（火）

（5月26日現在の参加者予定者：白石、新川、木原、広原）

8日

1. オープニング

今回のシンポジウムの意義・目的などを簡略に提示

2. キーノート・スピーチ

ヨーロッパ全体の参加・協働型地方公共政策の理念、制度の変遷などについて、現状に至るまでの話。特に WHY（なぜ参加型政策が必要なのか、どうしてそういった議論にたどり着いたのか）の部分に焦点をあてて。

3. (コメンテーター×3)からのコメント

内訳は東欧から1名、アジア・アフリカから1名、LORCから1名で、ヨーロッパから学ぶ際の視点や問題意識について参加者と共有する。

4. 全体セッション

キーノート・スピーチを受けて、これからの議論、特に HOW（どのように参加型システムを構築していくか）を全体的に討議。翌日の分科会への足がかりとなるまとめ

5. レセプション

9日

午前

1. Parallel Sessions: focus is on practical aspects of participatory policy making

セッション1: The current situation of the EU nations (presenters: one each from EU and East Europe)

セッション2: Systems of participatory public policy makings around the world (presenters: one each from local government federations in EU nations and East Europe)

セッション3: Case studies (cases on local empowerment and participatory policy making process) (presenters: one each who can give presentations on practical cases from East and West Europe)

午後

2. (A brief presentation by somebody from LORC about the parallel sessions in the morning: should be discussed further)

3. Closing remark

10日はエクスカーション（オランダの事例調査） シンポのみ参加も可能

< 1. 2 2004年度班研究会の予定 >

研究会	開催日	内 容	備 考
第1回	5月26日（水） 14:00～	2004年度研究計画、研究活動の詳細	
第2回	6月5日（土） 10:30～班会議 13:00～講演会	2004年度研究計画、研究活動の詳細 英国事例の評価 海外招聘スピーカーによる発表と討議	
第3回 （予定）	7月第中旬	リバプールの地域再生について 海外招聘スピーカーによる発表と討議	
第4回 （予定）	国際シンポ終了 後(11/10以降)	未定	
第5回 （予定）	11月	年次事業報告について	

< 1.3 調査と分析枠組みについて >

2004年から2年間の事例研究ならびに分析枠組み研究

地域経済開発と環境政策における、参加と協働について

新しいガバナンスとセクター間の構成要素を比較

従来型ではない動きをとらえていく方法で調査研究を行っていく

イギリス（ローカルガバナンスの実験実践地として）

現在、イギリスではさまざまな規模のパートナーシップが実施されている

包括助成金制度（EUの構造政策、英国政府の地域再生系予算）にもとづくパートナーシップ

LSP（地域戦略パートナーシップ）による地域政策の連携・統合

ローカル・コンパクト（コミュニティ組織、ボランティア組織、地方政府による盟約）

ドイツないしデンマーク

サステイナブル・デベロップメントは社会（コミュニティ含む）経済、環境の統合的な政策として展開（EUの構造政策と環境政策が加盟国を規定）

アメリカ

93年にエンパワーメント・ゾーン（9地域）を導入 イギリスのSRBに相当

参加と協働による政策形成と実施へのチャレンジ 包括助成金制度

ブッシュ政権下で助成金を縮小・廃止して税制優遇へと移行

（英国のメジャーからブレアへの連続性と対照的）

< 2. 1班のアウトプットの形式について >

昨年度は事業報告 今年はどうするか

報告書・・・2月末入稿

学術論文・・・12月入稿

他班との関係で1班のアウトプットを考えた場合、共通理念を共有しなければならない

1班の班会議で、「実態」で議論したほうがいいのか、「あるべき論」で議論すべきか

（5月26日の決定事項）

1班各研究員がワーキングペーパー、関心領域に関するレジюмеを提出し、情報を共有する。

キーワードはサステイナブル・コミュニティ

環境と経済と社会が一体になった時、サステイナブル・コミュニティが実現するのでは

サステイナブル・コミュニティが実現するためには、どのように仕組みが必要なのか

参加・協働を実践していくためには、どのようなシステムが必要なのか

なぜ公共政策を担う人材を育成する必要があるのか